



理事よりの ご挨拶

日本職業・災害医学会の活動と社会医学系専門医を養成する意義

 あるがとおる
 有賀 徹

 一般社団法人社会医学系専門医協会 理事
 一般社団法人日本職業・災害医学会 前渉外担当理事・現顧問
 独立行政法人労働者健康安全機構 理事長


日本職業・災害医学会(以下、本学会)は、社会医学系専門医協会に正に「しんがり」でそのお仲間に入れていただきました。そして言わば“すべりこみ”で社会医学系専門医の資格審査に間に合った状況にあり、多くの関係者の皆様様に深謝申し上げる次第です。まずは本稿の冒頭にこの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。

さて、本学会は、昭和 28 年に災害医学研究会として結成され、昭和 58 年に日本医学会第 80 分科会と認められて、平成 12 年に現在の名称となって今日に至っております。その活動ないし歴史を繙くと、昭和 20 年代からの我が国の石炭産業などの興隆や朝鮮戦争に伴う港湾労働といった社会背景と、各地に労災病院群が開設されていったこととは無縁ではありません。当学会は、後者の後ろ盾であった労働福祉事業団からの支援を受けていて、その基本骨格は労働福祉事業団の独法化を経た労働者健康安全機構にも引き継がれています。従って、独立行政法人労働者健康安全機構(以下、当機構)の社会的な使命を本学会の諸活動に担って頂いてきたという側面があります。本学会が主導してきた労災補償指導医制度や、海外勤務健康管理指導者認定制度もそのような一環とみなせます。

当機構は 34 箇所の労災病院、労働安全や労働衛生に与る研究所 3 箇所、各都道府県の産業保健総合支援センターと傘下の地域産業保健支援センター(各労働基準監督署とほぼ同じ地域毎に全国約 350 箇所)を管轄しています。これら三つの分野は勤労者医療の充実、勤労者の安全確保、産業保健の強化がそれぞれ課せられているわけで、国総体としてみれば我が国発展の礎たる総労働力の維持となりますし、国民個人々人については働くことを含めて長い人生のキャリアパスを支援するという使命があるというわけです。労災病院の臨床研究と研究所における基礎研究とを組み合わせる相乗効果を目指すなど、三つの分野の相互乗り入れを進めているところでもあります。

以上のように、我が国において広く展開されてい

る労働行政の重要な一翼を当機構が担っていることとなりますが、本学会の諸活動はその学術的な側面を強化する重要な役割を演じてきました。ここでは、労災病院のみならず、多くの大学病院や社会医学系の講座にも学術集会を開いていただくなど、学術面での切磋琢磨を経てきたわけです。そして今や、我が国は WHO の言う超高齢社会となつて久しく、高齢社会の、言わば世界のトップランナーです。高齢者雇用安定法の施行などもあって、高齢者の勤労者は増加の一途にあります。産業保健の分野であれば、まさに「未病を扱っている」と言えますし、病気を扱う病院からは診療を経て生活に戻すに当たり、勤労者であれば治療と就労の両立支援ともなりましようが、いずれにせよ、時代は地域包括ケアシステムの構築に向かって驀進中です。

そのような時代にあっても、地域においては医療、教育、雇用の三つが揃わねばならないとしばしば言われます。地域において大規模の病院が雇用の創出に一役買っている例もないとは言いませんが、基本は地域の産業・経済が維持され発展することです。勤労者医療の充実、勤労者の安全確保、産業保健の強化がそれぞれ重要であることがここでも理解できます。繰り返しになりますが、本学会はこれらの学術的側面を支えていて、そしてその中から社会医学系専門医協会の認定する社会医学系専門医が育っていくこととなります。本学会会員が、一人の医師として社会医学系専門医となることについて、自らの自己実現としての価値を感じることはその通りでしょう。しかし、本学会が労働行政において学術的な強化に資する活動を実に長年にわたり続けてきたことから、本学会による社会医学系専門医の養成が我が国の発展に多大に裨益していくものと強く確信いたします。

本学会の歴史や当機構の現況を述べつつ、本学会会員が日本社会医学系専門医協会の認定する社会医学系専門医となることの意義についてここに述べさせていただきます。“しんがり”の参加団体について、引き続き宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますよう切にお願い申し上げます。

研修プログラム認定委員会よりの ご報告

平成 29 年度 研修プログラム統括責任者連絡会議（大阪会場）参加記

おじま としゆき
 尾島 俊之

浜松医科大学健康社会医学講座



平成 29 年 12 月 23 日に大阪にて統括責任者研修会を兼ねた表記の連絡会議に参加しましたので、そのご紹介をいたします。別途 1 月に東京会場での連絡会議が開催されるため、この日は西日本を中心としながら北は新潟から南は沖縄までの広範囲からの約 50 人が集結しました。

前半は、指名発表として、研修を開始しているプログラムの大阪大学 磯博康先生、奈良県 山田全啓先生、宮崎県 日高良雄先生から、研修の状況の報告がそれぞれ行われました。大阪大学は、8 名もの専攻医を受け入れ、大学では座学や地域でのフィールド研究と、行政・医療・産業の連携施設での研修を両輪として研修が行われていました。奈良県は、感染症対策等いくつかの項目について協会の基本プログラムをさらに高度化・実践化した体系的なプログラムを独自に作成されており、また専攻医の先生はかなりの関連書籍を読破され、奈良医大と連携した内容なども含まれており、非常にインテンシブな研修が印象的でした。宮崎県は、保健所勤務と本庁勤務の 2 名の研修が行われています。綿密な研修計画を策定し、また時間の確保が困難な中、指導医と専攻医の定期的な振り返りの時間を確保しながら研修が行われていました。専攻医からは予算が限られている中でも統計学・疫学について知識を得ていきたいという感想が出されていました。報告のあった 3 つのプログラムは、提供している内容や、指導の方法などもそれぞれ特徴がありましたが、い

れも非常に熱心に研修が行われている様子がよくわかりました。

後半は、6 つのグループに分かれて、グループワークが行われました。私が参加したグループでは、4 プログラムがまだ専攻医はおらず 2 プログラムは既に専攻医への研修を開始しており、前半は専攻医の募集の方法などについて、後半は専攻医を受け入れてからの研修の展開方法などについて意見交換を行いました。

その後、各グループからの発表・質疑です。副分野における研修、産業医が少ない地域での産業保健の研修、多職種からの評価、研修中の身分保障や事故があった場合の対応、個人情報保護の覚書等、学会参加等の費用、専攻医の希望によるプログラム内容の調整、達成目標・評価項目を示せると良いなど、活発な意見交換、提案が行われました。

総括として、森晃爾研修プログラム認定委員会委員長から、副分野の研修は社会医学の種々の分野間の相互理解の意義も大きいこと、協会に質問を寄せただけであれば Q & A に反映できることなどのお話がありました。そして、最後に協会の宇田英典理事長から、2500 人の指導医・専門医が登録され、63 のプログラムが認定されている状況になり、この制度に魂を入れていきたいと思いますというご挨拶があり締めくくられました。

全体として、グループに分かれての時間がしっかりととられていたため、日ごろの疑問点をぶつけあい、他のプログラムでの取り組みをざっくばらんに聞くことができました。また、参加したみなさんが、この社会医学系専門医の制度をより良く育てていこうという前向きな意欲にあふれていて、大変意義のある連絡会議となりました。

最後に大阪会場でのご準備を中心的に進めていただきました山本光昭先生を始め関係の皆様にご心より御礼申し上げます。（一部、発言者の趣旨と異なる点がありましたら寛大にお許し下さい）



今月のお知らせ


※ 社会医学系専門医・指導医の申請そしてリストについて

今年度の申請期間（2017年12月1日～31日）は終了しました。

※ 締切後の申請については、受付しかねますのでご了承ください。

※ 申請受付は各年度1回のみです。

認定専門医・指導医のリストを、社会医学系専門医協会ホームページで開示しています。

<http://shakai-senmon-i.umin.jp/list.html>

一般社団法人社会医学系専門医協会としての業務年度は、7月1日から6月末日までになりますが、いわゆる暦年度（4月1日から3月末日）によって、異動などが生じる方もいらっしゃるかと存じます。特に、自治体や大学の認定プログラムの中での指導医などの職について変更が生じる場合には、統括責任者にご連絡の上、ご対応頂けますように、お願い致します。

※ 基本プログラムのご案内（判明分）★eLearningについては制度が整い次第ご連絡いたします。

学会名	日本集団災害医学会
タイトル	社会医学系専門医制度 基本プログラム「健康危機管理」
日時	2018年2月3日（土）9:30-16:50（第23回日本集団災害医学会総会・学術集会 最終日） ※学術総会事務局には問い合わせしないでください。
場所	神奈川県：パシフィコ横浜 会議センター 4階
備考	本プログラムは、社会医学系専門医協会が主催し、日本集団災害医学会が共催するものです。社会医学系専門医制度の単位の一部となるものですが、どなたでも受講できます。詳しくは日本集団災害医学会ホームページ（ https://jadm.or.jp/ ）をご覧ください。
学会名	日本集団災害医学会
学会名	日本衛生学会
タイトル	社会医学系専門医制度 基本プログラム「行動科学」
日時	2018年3月22日（木）10:00-17:00 ※学術総会事務局には問い合わせしないでください。
場所	東京：東京工科大学 浦田キャンパス 3号館 2階の講義室
備考	本プログラムは、社会医学系専門医協会が主催し、日本衛生学会が共催するものです。社会医学系専門医制度の単位の一部となるものですが、どなたでも受講できます。受講希望の方は、3月9日（金）までに、参加申込書を社会医学系専門医協会事務局までメールにてご提出ください。
学会名	日本衛生学会
学会名	日本産業衛生学会
タイトル	社会医学系専門医制度 基本プログラム「環境・産業保健」
日時	2018年5月16日（水）9:25-17:30（第91回日本産業衛生学会 初日） ※学術総会事務局には問い合わせしないでください。
場所	熊本県熊本市：くまもと県民交流会館パレア 会議室1 受講申し込みは、こちらからWeb登録してください。Web登録にアクセスできない場合は、当日、会場での受講の申し込みも可能です。
備考	問い合わせ先：日本産業衛生学会専門医制度事務局 sanei-senmoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp スパムメール防止のため、“@”は画像となっております。送信の際は“@”を直接入力してください。
学会名	日本産業衛生学会

※ 指導医講習会のご案内 (判明分)

学 会 名 日本集団災害医学会
 タイトル 第23回日本集団災害医学会総会・学術集会
 社会医学系専門医指導者講習会「更新条件について(仮)」
 日 時 2018年2月1日(木) 10:00-11:00
 場 所 神奈川県横浜市 パシフィコ横浜 第1会場 メインホール
 備 考 詳しくは日本集団災害医学会ホームページ (<https://jadm.or.jp/>) をご覧ください。

学 会 名 日本疫学会
 タイトル 第28回日本疫学会学術総会 社会医学系専門医研修会
 日 時 2018年2月3日(土) 8:00~9:00
 場 所 福島：コラッセふくしま(第2会場：4階中会議室401)
 U R L <http://procomu.jp/jea2018/>

学 会 名 日本衛生学会
 タイトル 第88回日本衛生学会学術総会 シンポジウム16：「社会医学教育(仮)」
 日 時 2018年3月24日(土) 13:00-15:00
 場 所 東京：東京工科大学 蒲田キャンパス 第1会場(3号館地下大講義室)
 U R L <http://www.jsh88.umin.ne.jp/>

学 会 名 日本産業衛生学会
 タイトル 第91回日本産業衛生学会総会
 社会医学系専門医指導者講習会「更新条件について(仮)」
 日 時 2018年5月17日(木) 15:50-16:50(60分)
 場 所 熊本：熊本市 鶴屋ホール 7Fカーネーションサロン(I会場)

社会医学系専門医協会紀行

広報担当：大槻剛巳



社会医学系専門医協会は2016年12月に一般社団法人として産声を上げましたので、満1歳の誕生日も過ぎて、4月からは2年目に突入です。

もちろん、いきなり始まった訳ではなく、2015年の春先から協議会が発足し、多くのミーティングを繰り返してきました。2015年夏には関連の団体・学会の関係メン



暑い夏の国立保健医療科学院@和光市(2015年夏)

バーが集まって合宿で、社会医学系専門医制度構築に向けて会議室に缶詰になって検討をしました。そして翌年、広報担当・大槻(川崎医科大学)が主として携わっている日本衛生学会は5月に旭川市で総会が開催され、その際にも社会医学系専門医についてのシンポジウムを開催

しましたが、満開のチューリップと桜が同時に楽しめる北国ならではの情景に心を和ませながら、当時、社会医



常盤公園の桜とTULIP@旭川市(2016年5月)

学系専門医の制度構築なども進めながら、多くの会員の先生方に意義と制度設計について説明するプログラムになっていました。

現在の専攻医が100人を超える状況などなかなか想定できていなかったのですが、当時の写真を振り返ると、昔日の思いが新たに湧き上がってくるようです。